平成31年2月24日（日）公明新聞　1面

原子炉建屋が見渡せる高台で小野氏（左端）から廃炉の進捗状況について説明を受ける井上副代表（左から3人目）ら＝23日　東京電力福島第1原発

着実に進む廃炉作業

井上副代表ら党復興加速化本部

福島第1原発を調査し確認

公明党東日本大震災復興加速化本部の井上義久本部長（党副代表）は23日、東京電力福島第1原発（福島県大熊町、双葉町）を訪れ、廃炉に向けた取り組みを調査した。高木陽介事務局長（党国会対策委員長）、福島県議らが同行した。

井上副代表は、放射性物質の低減により、防護服やマスクなしで短時間の滞在が可能になった高台から、同原発1～4号機の原子炉建屋を視察。東京電力ホールディングスの小早川智明社長や廃炉・汚染水対策最高責任者の小野明氏から、全機が冷温停止状態を継続し、着実に廃炉作業が進んでいることを確認した。

事故復旧作業の指揮拠点だった免震重要棟では、同2号機の原子炉格納容器内にある燃料デブリ（溶け落ちた核燃料）とみられる堆積物に専用装置で初めて触れた動画を見ながら、廃炉作業の進捗について説明を受けた。移動の一部には、構内で運行している自動運転の電気バスを利用した。

その後一行は、同県富岡町の東京電力廃炉資料館を訪れ、原発事故に対する東電の「反省と教訓」を込めた映像や汚染水対策に関する展示などを見て回った。

視察後、井上副代表は「廃炉作業が着実に進み、作業環境も大きく改善している点を評価したい。積極的にこうした現状を公開し、多くの人に見てもらう工夫が必要だ」と述べた。